



2025～26 年度国際ロータリー・テーマ
RI 会長：フランチェスコ・アレツツォ

鹿屋西ロータリークラブ週報
WEEKLY REPORT
NEWS
<https://kanoya24-rc.synapse.kagoshima.jp>
ROTARY 第2168回



2026年6月13日(土)～17日(水) ロータリー国際大会(台湾:台北)

2026年5月11日

◆ゲスト紹介(ライラ研修生)

岡元 蓮さん (株)きたやま
一松 心羽さん 西文社印刷(株)

◆会務報告

1. エアーマモリアル in かのや 2026 第2回実行委員会の開催について(ご案内)
日時:令和8年5月28日(木)10:00～
場所:鹿屋商工会議所3階3-1会議室
2. 機関雑誌「ロータリーの友」購読申し込みについてのご案内
3. 手続き要覧配布について
4. 鹿屋市国際交流協会令和8年度総会報告について(資料送付)
5. ハイライトよねやま Vol.314
6. 第1回グローバル教育推進事業準備委員会の開催について(出席依頼)
日時:令和8年5月29日(金)10:00～11:30
場所:鹿屋市役所6階603会議室
7. 週報……………鹿屋RC
8. 5月例会変更のお知らせ(志布志RC)
19日(火)例会変更予定⇒通常例会へ変更

◆5月誕生者祝



野田敬一さん、中間いく代さん

◆5月メモリアルデー祝



風呂井敬さん、志村正子さん、中原浩一さん
山下俊也さん、椎本康弘さん、吉行哲宏さん

◆出席表彰(皆勤)

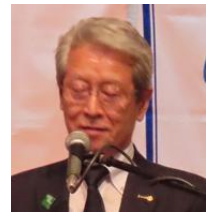


北山 勉さん(27年) 山崎隆夫さん(12年)
中間いく代さん(15年) 上谷田浩幸さん(15年)

会長の時間

会長 久木田 弘さん

皆さんこんにちは、先月25日に国分において「若者のリーダーシップを育てるための研修プログラム」RYLAロータリー青少年指導者養成プログラムが開催されました。当クラブより北山さんと西ノ原さんの会社より一人ずつ参加していただきました。後ほど参加していただきました岡元蓮(カトリック)さんと一松心羽(ヒツマツコハ)さんに参加した報告をお話しいたします。



| 次回プログラム | |
|----------|----------|
| 5月25日(月) | |
| 卓話者: | 上谷田 浩幸さん |
| 担当委員会: | 会長エレクト |
| 3分間スピーチ: | 大石 博資さん |
| 出席報告 | |
| 会員数 | (36)38名 |
| 出席数 | 30名 |
| 出席率 | 83.33% |

| メイクアップ情報 | | | |
|----------|--------|--------------|------------------------|
| 鹿屋 | 05月20日 | (水) | ホテルこばやし |
| かのや東 | 05月21日 | (木) | かのやグランドホテル 18:30クラブ協議会 |
| 串良 | 05月18日 | (月) | セントロラント道の駅 |
| 志布志 | 05月19日 | (火) | 大黒リゾートホテル |
| きもつき | 05月20日 | (水) | 高山温泉ドーム |
| 南九州大崎 | 05月21日 | ⇒17日(日)地区協参加 | |
| 志布志みなど | 05月20日 | (木) | 居酒屋もみじ 19:30創立記念例会 |

鹿屋西ロータリークラブ

会長: 久木田 弘
副会長: 山崎 隆夫
幹事: 西ノ原庄一

例会日 月曜日 12:30～13:30
例会場 ホテルさつき苑 TEL:40-1212
事務局 〒893-0064 鹿屋市西原1丁目9-10
ホテルさつき苑内 TEL:44-5811 FAX:41-1959
E-mail kanoya24@po5.synapse.ne.jp



よろしくお願ひ致します。

さて、今月は青少年奉仕月間となっています。ロータリーの五大奉仕の一つであります「青少年奉仕」について、お話をさせていただきます。青少年奉仕とは、未来を担う子どもたちや若者たちの成長を支援する活動です。ロータリーでは、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLAなど、さまざまな形で若い世代と関わっております。

さて、ここで少し考えてみたいと思います。最近、若い人と話をする機会がどのくらいあるでしょうか？

自分も正直に申し上げますと、孫と話をする以外はほとんどないように思います。

最近では、スマートフォン一つで何でもできる時代ですので、若者同士はよく話していても、世代を越えた会話は意外と少ないのかもしれません。

黒電話やレコード、カセットテープ、フロッピーディスクも無くなり、若い人は見たこともない人も多くなってきました。時代は確実に変わっていると思います。

しかし、どんなに時代が変わっても変わらないものがあります。

それは、「人が人を育てる」ということです。

私たちの何気ない一言が、誰かの人生を変えることがあります。少し責任も感じますが、同時に大きなやりがいも感じます。そう考えると、青少年奉仕というのは、とても夢のある活動だと思います。

では、なぜロータリーが青少年奉仕に力を入れているのか。それは、未来は今の若者たちによって創られるからです。私たちがどれだけ努力して社会を築いても、それを受け継ぎ、さらに発展させていくのは次の世代です。つまり、若者が元気でなければ、社会の未来も元気にはなりません。ところが、ある調査では、日本の若者は「将来に希望を持っている」と答える割合が、他の先進国と比べて低いという結果が出ています。これは、少し寂しい現実です。

では、私たちに何ができるのか。「何か特別なことをしなければいけないのではないか」と思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。ほんの少しでもいいのです。若い人に関心を持つこと。声をかけること。話を聴くこと。実は、これが一番難しく、一番大切なことかもしれません。

つい私たちは、人生経験がありますので、「それはこうの方がいい」「昔はこうだった」と、アドバイスをしたくなります。自分もつい話が長くなり、「昔の話」を始めてしまい、気がつけば若い人の目が少し遠くを見ているそんな経験もございます。

皆さんもそんな経験ありませんか。

しかし、本当に大切なのは、「教えること」よりも「聴くこと」ではないでしょうか。青少年奉仕とは、何かを与える活動ではなく、「その人の存在を認めること」なのかもしれません。そしてもう一つ大切なのは、「共に成長する」という視点です。若者たちは、私たちにはない柔軟な発想や、新しい価値観を持っています。

時には、「なるほど、そういう考え方があるのか」と驚かされることもあります。つまり、私たちが教えるだけではなく、私たち自身も学ばせてもらっているのです。これこそが、ロータリーの青少年奉仕の素晴らしさだと思います。

また、青少年奉仕は「平和」にもつながります。異なる国や文化を持つ若者同士が交流することで、理解が生まれます。

そして、その理解が争いを減らす力になります。青少年交換を経験した若者がよく言う言葉があります。「世界が広がった」「人を見る目が変わった」小さな出会いが、その人の人生を変え、やがて社会を変え、世界を変えていく。

青少年奉仕とは、特別な活動ではなく、「未来に希望を手渡すこと」だと思います。ぜひ私たち一人ひとりが、若い世代に目を向け、関わりを持ち、応援していきたいと思います。その積み重ねが、必ずや明るい未来につながると信じております。

ご清聴、ありがとうございました。



3分間スピーチ

鶴丸 秀治さん

皆さん、こんにちは。久しぶりの登板になりましたツルマルです。

さて、昨日は「母の日」でしたが、皆さん、いろいろな思いで過ごされたのではないのでしょうか。

母の日というのは、1907年、アメリカのアンナ・ジャービスが亡くなった母のために追悼会を開き、母が生前好きだった白いカーネーションを参列者に配ったことがきっかけと言われているそうです。やがてそれが広まり、今では「母に感謝を伝える日」として世界中に定着しています。もともとは「亡き母を想う日だったことを考えると、この日の意味も少し違って見えてくる気がいたします。

実は私も、妻の両親もすでに他界しておりますので、カーネーションを贈る相手はいなくなって



しまいました。ですからこの時期になると、「贈る」相手がいることは、幸せなことだったんだなあと感じます。きっとこの中にも、同じようなお気持ちの方がいらっしゃるのではないかなと思います。だからこそ、今、お母様がお元気でいらっしゃる方は、贈ることができる「幸せ」を感じて欲しいと思います。

でも不思議なもので、母親というのは、何かを買い与えることよりも、「気にかけてもらっているかどうか」を大事にしていたように思います。私自身も振り返ってみると、若い頃は当たり前のように過ごしていましたが、年を重ねるにつれて、「ああ、ずいぶん支えてもらっていたんだな」とか「ずいぶん気にかけてもらったんだな」と感じるが増えてきました。

これは母親に限らず、家族や仲間、仕事の関係でも同じで、人は一人でやっているようで、実は多くの支えの中で生きているんだと思います。

ロータリーの活動もまさにそうで、誰か一人が頑張るのではなく、お互いを思いやり、支え合うことで成り立っていると思います。

私も昨年度、会長を務めさせていただきましたが振り返ってみると、自分が何かをしたというよりも、皆さんに支えていただいた一年だったと、改めて感じております。

母の日というのは、そうした「当たり前ではない支え」に気づかせてくれる日なのかもしれません。そして、感謝は「思ったときに伝える」ことが大切だと、今は特に感じております。

ご家族でも、職場でも、ロータリーの仲間でも
・・・

ぜひ身近な方に、改めて感謝の気持ちを伝えてみてはいかがでしょうか。

本日は、そんなことを感じた母の日に思うこと
でございました。

ご清聴ありがとうございました。



ライラ報告

青少年奉仕委員長
早川雅子さん

国際ロータリー第2730地区
ライラ委員会主催、国分中央ロータリークラブがホスト、加治

木ロータリークラブ・国分ロータリークラブ・霧島ロータリークラブ・始良ロータリークラブがコ・ホストで、ロータリー青少年指導者養成プログラムRYLAが、2026年4月25日（土）霧島市国分総合福祉センターで行われました。

ロータリー青少年指導者養成プログラム



「夢を現実に!」
～一歩踏み出す、その瞬間から未来は変わる～



テーマは、**「夢を現実に!」**
～一歩踏み出す、その瞬間から未来は変わる～
です。

鹿屋西ロータリークラブから、ライラ研修生として参加いただいたのは、西文社印刷の一松心羽さん、株式会社きたやまの岡本蓮さんです。参加いただいた両者そして、紹介いただいた西ノ原社長、北山社長に感謝とお礼を申し上げます。お二人には参加した感想を後ほど述べていただきます。

☆RYLAとは、Rotary Youth Leadership Awardsの頭文字で、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)のことです。

14～30歳の若い世代を対象とした短期集中型のリーダーシップ育成プログラムです。

クラブ、地区、または多地区合同で運営され、参加者が新しいスキルを学びながら、地域社会と関わり、個人的・職業的に成長できる機会となります。

RYLAの運営者は、参加者の対象年齢、地域社会の具体的なニーズや関心に合わせて、行事の内容と形式をカスタマイズできます。プログラムの種類には、ワークショップ、参加型アクティビティ、プレゼンテーションや講演などがあります。中学・高校生、大学生、さらには若い社会人を対象とすることができ、開催日数も自由に決められます。このような柔軟性があるため、参加者特有のニーズに合う画期的なプログラムを企画することが可能です。

RYLAを通じて、若いリーダーは、地域や世界で変化を生み出すために必要な知識とスキルを身につけることができます。一方、クラブと地区にとっても、RYLA参加者や学友の持つ新鮮な視点や考え方が得られるというメリットがあります。

☆RYLAプログラムの目的は、

- ・ 若者のリーダーシップスキルを磨き、地域に貢献している若者を表彰すること
- ・ 若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと
- ・ 若者のリーダーシップ育成を支援することにより、ロータリーの青少年奉仕を実践することです。

☆RYLAを実施するメリット

RYLAを実施するメリットは数多くあります。

◇ 未来の担い手を育てること・・・リーダーシップ

育成を通じて若者の成長を促します。

- ☆ つながり築きます・・・社会貢献をめざす仲間たちと出会うことができます。
- ☆ 参加者の基盤を広げることができます
- ☆ 初めてのロータリーへの接点、ロータリーを通じて得られ(インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、ロータリークラブ)への入会を勧めることができることです。

当日は、開講の挨拶のあと、概要説明がありました。まず、講演ということで、映画監督:伊地知拓郎氏とプロデューサーで俳優の小川夏果氏の紹介がありました。

講師 映画監督 伊地知拓郎氏
俳優・映画「郷」プロデューサー 小川夏果氏
講演テーマ
「夢を現実に！」
～一歩を踏み出す、その瞬間から未来は変わる～



伊地知拓郎監督は、鹿児島出身で、北京電影学院監督学科卒です。東京大学に入るより難しいということでした。歴代日本人最年少で上海国際映画祭アジア新人部門監督賞・作品賞にWノミネートされるなど、国際的に高評価される気鋭の若手監督。ということです。伊地知拓郎監督の作品は、「郷」という作品で、全国の学校で、いじめ防止・命の教育、教材として活用されているそうです。



郷は西郷さんかもしれません。動画がありましたので、ご覧ください。



次に小川さんです。同志社大学に入学して間もない2005年4月25日に発生したJR福知山線脱線事故では、通学のため事故列車の2両目に乗車しており、背骨が折れ50針以上を縫う重傷を負い4ヶ月間の入院生活を送った。その後、心療内科で心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と診断されています。学生時代にはスカウトされたのをきっかけとしてモデルとして活動していましたが、大学卒業後は金融機関へ就職。しかし俳優への思いが絶ち難く退職、CMのオーディションに合格し俳優となり、ドラマ・映画・舞台に出演しています。出演作は、信長協奏曲、真田十勇士、伊藤園のCMなどです。今回は、プロデューサーとしてのお仕事です。2015年に鹿児島県垂水市の観光大使に委嘱されました。2019年9月より北京電影学院へ留学。留学中に知り合いとなった伊地知拓郎氏の初監督作品『郷』でプロデューサーとして鹿児島ロケを取り仕切りました。

2023年から鹿児島県始良市在住です。

動画がありましたので、ご覧ください。

監督は、人を幸せにするために、映画を作ったとおっしゃっていました。

監督の仕事は揃った素材で表現する。取り直しが出来ない、その中で、軌道修正していく。あきらめるのではない。ベストを尽くしていく。小川さんは、女優から監督と同じ学校へ留学し、出会った。代表作を作りたい。プロデュースする側に回る。チャンスが来た時に準備をしておかないとチャンスは逃げる。

伊地知監督の話が難しすぎてわかりにくかったのですが、そこを自分なりにとらえている、一松さんと岡元さんから後でお話いただけます。

アイスブレイク ペーパータワーチャレンジ



限られたA4版のコピー用紙を用いて、より高く積み上げたチームが勝利

AチームからEチームまで結成、ロータリアンも挑戦しました。勝利チームは、岡元さんが入っていたAチームが155cmで優勝しました。

これで、打ち解けることが出来ました。

13:20からワークショップでした。

曼荼羅チャートを使用した夢実現への一歩ということで、何になりたいか？

曼荼羅チャートをチームで作成しました。

曼荼羅チャートといえば、大谷翔平さんが作成したものが有名です。大谷翔平は、8球団片ドラフト1位になる。そのためには何をすればいいのか？

キレ、スピード160km、変化球、道、人間性、メンタル、体づくりなどを挙げて、それぞれにまた、要素を上げていきます。

各チームが作成したのは、

岡元さんのチームAは、世界1の社長になる

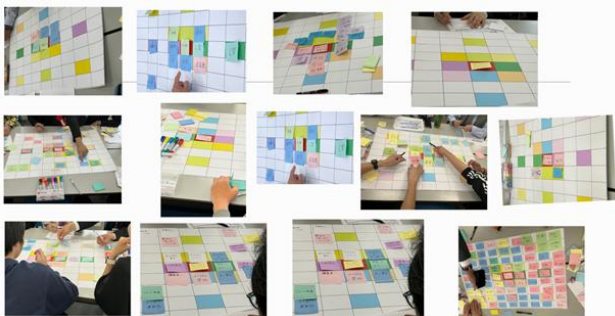
B 金持ちになる C 幸せになる

D 楽しく生きて悔いなく死ぬ

E ロータリー社長になる。

などという目標を立てました。Cチームは幸せになるために満腹になる。そのためには、飢えを知ると満腹で幸福感を味わえるとありました。皆さんもいかがでしょうか？私も作ってみたいと思いました。近時、学校で将来何になりたいか、そのためには何をすべきか、キャリアパスポートの授業が行われておりますが、この曼荼羅チャートを作成するとよいですね。夢が具体化していきます。

一松さんのBチームは、金持ちになることが目標です。そのために、金持ちと結婚するということが、書かれていました。皆さん楽しそうでした。



発表です

閉校式が行われ、講演者2人に花束贈呈です。最後は今日の参加者全員で記念撮影をしました。

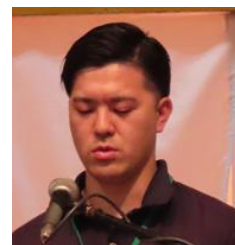


RAYLAのバッジがプレゼントされました。それでは、お二人に、感想を話していただきましょう。



ライラ研修生 岡元 蓮さん

本日はこのような貴重な場をいただき有難うございます。映画監督・伊地知監督のお話、そしてその後のワークショップを通じて感じたことを、私自身の活動と照らし合わせながらお話しさせていただきます。



まず、伊地知監督のお話の中で最も心に残ったのが、作品制作における「順序」についてでした。

「目標、障害、努力、結果、意外、転換、そして結末」物語を構成するこの一連の流れは、単なる映画のフレームワークにとどまらず、あらゆる創造に通じるものと感じました。

私自身、趣味程度で絵を描いておりますが、制作する前には同じようなプロセスを辿っています。

何を描きたいかという目標があり思い通りにならないという障害があり、試行錯誤を重ねる。

しかし、単に完成させるだけでなく、そこに書く前には想像しなかった意外性や転換が加わった時に、初めて作品自体が納得のいく結末になると気付かされました。

表現の世界で第一線を走る監督の言葉は、私の創作活動にも大きな指針を与えてくれました。

後半のワークショップでは、初対面の方々と共に曼荼羅チャートの作成に取り組みました。私たちグループが掲げたテーマは世界一の社長です。

最初は緊張もありましたが、話し合いがはじまるとそこには刺激的な空間が広がっていました。

何より印象的だったのは、誰かが意見した際に誰も否定せず、まずは全てを肯定して受け入れるという空気感です。ビジネスや経営という、正解のない問

いに対して、互いに答えのない答えを出し合う過程は私にとって非常に新鮮な体験でした。否定がないからこそ自由な発想が生まれ一人では決して辿りつけないような世界一の社長が曼荼羅チャート中に形成されていき、そのプロセスそのものが一つの素晴らしい作品を作り上げるような高揚感がありました。日頃、異なる職種の方々と一つのテーマに向き合い互いの感性をぶつけ合えたことは、私にとって何にも代え難い貴重な経験になりました。

このような新鮮な驚き、学びの機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。本日の経験を糧に私自身もより一層精進して行きたいと思えます。



ライラ研修生 一松心羽さん

4月25日に霧島市国分総合福祉センターにて開催されました講話を通して、第一に自分の「過去・現在・未来」について考えさせられました。



今回のテーマである、「夢を現実に！～一歩踏み出す、その瞬間から未来は変わる～」を聞いた時、「自分の夢とは一体なんなのだろう」と明確なものはありませんでした。しかし、伊地知さん、小川さんを講師としてお迎えし講話を聞いていく中で少しずつ自分の中の考え方が変わっていくことを実感しました。

国際的に評価されている若手監督である伊地知さんの「人々の精神の進化」という大きな夢。しかしその影には伊地知さんの苦悩や失敗、努力など、数多くの挫折や想いがあることを知りました。そんな伊地知さんからの講話の中で一番印象に残っている言葉は、『「夢」の逆は「あきらめる」。

「あきらめる」とは「あきらかにする」こと。本当の意味であきらめるとは最後までベストを尽くして、自分の実力をあきらかにして、楽になること』という言葉です。私自身「あきらめる」＝「マイナス」なことだと考えていました。

しかし、自分の常識が覆り、そして伊地知さんから伝えられた、あきらめるという言葉の意味に納得し、とても勇気ももらいました。

また、小川さんの「自分の未来を想像できるか」という言葉にはドキッとさせられました。漠然と「今」を生きているだけの私は、想像しようと考えたことすらありませんでした。24歳から女優へ転身という、決して楽ではない道を選び「夢を実現」している小川さんの姿は眩しく、堂々として

いる姿はとてもカッコ良く見えました。

そして、「運は平等である。でも掴むのは自分次第」という言葉は、今一度自分自身を振り返り、これからの人生の指針として悔いのない人生を送りたいと思わせてくれました。

「自分の夢」とは何か、どう生きていきたいか、どうしたら自分らしくいられるか、講話の終了した今も考え続けています。

まだ、明確なものはありませんが、漠然と「こう生きていきたいな」という前向きな気持ちが自分の中に生まれたことはたしかです。講話での出来事は、今後の人生の大きな学びとなり、伊地知さん、小川さんの言葉をしっかりと胸に刻み、これからの生き方につなげていきたいと思えました。



◆スマイル報告

〈10件〉

- メモリアルデー有り難う御在居ます。早いもので48回目、只々感謝あるのみです。…………… 風呂井
- ライラセミナーに弊社社員の岡元を参加させていただき有り難うございました。大変有意義な体験が出来、今後さらに活躍してくれると思います。西ノ原幹事、大変お世話になりました。又、出席表彰ありがとうございます。…………… 北山
- 喜寿の誕生日祝いを頂きありがとうございます。心臓が止まるまでがんばります。…………… 野田
- 誕生祝、勤続祝、ありがとうございます。…………… 中間
- メモリアルデーのお祝いありがとうございます。…………… 志村
- 会員皆様のおかげにより15年出席表彰をいただきました。ありがとうございます。…………… 上谷田
- 都合により早退いたします。岡元様、一松様、ライラご参加ありがとうございます。…………… 中原
- 本日はライラの報告に岡元様、一松様、お越し頂き誠にありがとうございます。…………… 久木田
- 岡元さん、一松さん、RYLAへのご参加と本日の発表ありがとうございます。今後のご活躍をお祈りいたします。…………… 西ノ原
- 久しぶりの例会で戸惑っております。この度は記念日お祝いありがとうございます。たまにしか会えない夫婦ですが、会ってる時は仲良くしています。…………… 山下

○本日のニコニコBOXスマイルは2,581円です。
本日計 49,000円 累計(一般) 335,100円
(財団) 113,343円 (米山) 110,762円

***** ありがとうございました *****



週報担当：梅北